

2021年度第1回地域会議議事概要

2021年8月20日（金）、六ヶ所村内において地域会議を開催しました。

当会議は、私ども日本原燃(株)が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、当社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員】

議長	佐藤 敬	様	青森中央学院大学学長
	芦野 英子	様	エッセイスト
	上長根 浅吉	様	(株)浅工務店代表取締役
	菊池 としえ	様	六ヶ所村女性団体連絡協議会会長
	北村 真夕美	様	(株)青森経営研究所代表取締役社長
	小林 昭男	様	(株)小林商工代表取締役

【会議の流れ】

1. 社長挨拶
2. 議題説明
「日本原燃の安全性向上への取り組みについて」
3. 再処理工場の安全性向上対策の現場視察
4. 意見交換

【議事概要】

◆社長挨拶

本日はお忙しい中、地域会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、委員の皆さまにおかれましては、日ごろから当社事業に対し、ご理解、ご指導を賜り誠にありがとうございます。

当社は、7月21日に低レベル放射性廃棄物埋設センターの事業変更許可をいただくことができました。これで当社の全ての事業が東日本大震災の経験を踏まえて策定された新規規制基準の適合審査に合格したことになります。今後は、審査で約束した内容をしっかりと現場に反映させるため、設工認の対応を進めているところでございます。

また、当社はこれまで様々な新型コロナウイルスの感染防止対策を講じてまいりましたが、6月に当社事業所構内の一つの事務所でクラスターを発生させてしまいました。その後収束しましたが、現在においても散発的に感染される方が出ております。我々も対応をしっかりと行いながら皆さまにご心配をおかけしないように、また、現場の作業が滞ることのないよう、注意しながら工事を実施してまいります。

当社は現在 3000 人の社員がおりまして、青森県内の方が 65%程度の割合を占めています。その内、六ヶ所村の方は 7～8%となります。当社は青森県内に根差した企業であり、これを強みとしてとらえております。今後も、青森県内の会社、地元の方々と共に発展する会社になっていきたいと考えています。

本日は、皆さまに再処理工場の安全性向上対策工事の現場をご視察いただきたいと思います。そして、忌憚のないご意見をいただき、活動に反映していきたいと思います。今日はよろしく願いいたします。

◆意見交換概要

【テーマ】

- ・再処理工場の安全性向上対策工事の現場を実際にご覧になった際のご意見・ご感想
- ・地域の皆さまへの安全性等に関する理解活動についてのご意見

【委員】 私は 13 年ぶりに六ヶ所に来て、ご説明をいただいて疑問に思うことはありませんでした。私の周りには MOX 燃料を知らない人が多い。私は ETT に所属し、今では一番年長になっている。他のメンバーは、いわば私の孫か子供のような 40 歳代、50 歳代の方だが、MOX を知らない。

【委員】 地元を代表して一言。日本原燃が掲げている再処理工場のしゅん工時期は来年度上期ということだが、しゅん工前にアクティブ試験をするのか。その試験が完了しないことには工場が稼働できないということか。私はかつてコンクリート打ちなどの現場に入っており、日本原燃の通路の中まで分かっているつもり。コンクリートには様々な部材を埋め込んであるが 30 年経過した今でも大丈夫なのか。



意見交換の様子

【当 社】 22 年度上期のしゅん工に向け一番大きい課題はアクティブ試験と考えています。17、8 年前に試験を途中まで行って、プルトニウムを抽出するところまでうまくいったが、その後大震災を迎え、そこから新規制基準対応に移りました。その結果、長期間運転が停止する状態となったため、アクティブ試験としてその辺の確認をしっかりと行っていくことが必要と考えています。アクティブ試験を行い、安全が確認できたらしゅん工となります。

また、色々なものが埋め込んであるということも全く同じ話で、しっかりと確認しなくてはならないと思っています。

【委 員】 私は、六ヶ所村の住民として必ずしゅん工してほしいという気持ち。村民はこれをなくして六ヶ所村はないよというくらいの気持ちでやっているとしますので、何とか頑張してほしい。

【当 社】 ありがとうございます。

【委 員】 日本原燃では、規制委員会からのコメントを受け、非常に多くの工事をしていくことが分かった。私も現場を見る機会が多くあるが、来るたびに拡張されている。

【当 社】 過去 20 年間に亘りみんなが頑張ってもらいました。皆さんに安心していただける施設にすることが大事だと思っています。まずは、規制の要求にしっかりと応えることが最低条件だと思っています。

【委 員】 日本原燃が地域の経済を支えている点において、7～8000 人が一つの企業に寄り添って働いているという例は、県内では聞いたことがない。コロナに関しては、あれほど何千人もの人間が働く中で、感染拡大をよく抑えていると思う。

【当 社】 当社が地域経済を支えているというお言葉をいただきました。しゅん工して、操業した後は安全性向上対策工事に係る方々がだいぶ少なくなるため、地域経済に与える状況が変わってくると思っています。

【委 員】 これまで地域会議の委員として事故後の福島、さらに新潟、静岡、川内を視察させていただいた。同行の日本原燃の皆さんも、様々な気づきの点を持ち帰り、さっそく好事例を取り入れ、工夫を進めておられると、本日拝見した現場の中に見て取れた。

小さなことだが、視察記念の写真なども、どこの施設でも視察終了時には出来上がっていた。本日もいただいたが、日付や青森県における六ヶ所村の位置関係などが明示されていると、PRになるのではないか。

日本原燃のテレビコマーシャルはよく拝見している。コマーシャルでは働いている方々の顔が一人ひとり分かるようになっており、こういう若い人達が日本原燃で働いているんだと感ずることができて印象深い。

日本原燃には、様々な視察者が来られると思うが、国政に携わる方には必ず一度は視察していただくことが重要ではないか。

規制委員会の検査で発見されたマスクの問題。日本原燃では 10 数年前にも同様に協力会社の方々のマスクの問題があったと記憶している。夏は暑くて、防護マスクが使いにくいということで、ついつい外していたとのこと。ここにきて、今回の話を聞き「またか」と思い、少しがっかりした。協力会社の一存で使用するマスクは決めることができるのか。

- 【当 社】 日本原燃が決めています。協力会社の方が、暑くて使いづらいから自ら外したということではなく、当社が決めたルールが良くなかったということです。我々は作業内容に応じて、放射線量と時間の関係からどのようなマスクを着けるかというルールを作成していますが、そのルールのもと、あまりにも四角四面の判断をし、不適切なマスクとなってしまった。マスクの選定を行うには、時間の前に環境に応じた対策があつて、それに加えて時間でどうしていくかということを決めなければいけなかった。この問題は、我々指導する側のルールのミスだと思っており、本当に申し訳なく思っております。
- 【委 員】 マスクの件では予算が厳しかったとかはないか。
- 【当 社】 それはありません。マスクはしっかりと用意しています。
- 【委 員】 MOX燃料工場の鉄筋が J I S の基準を満たしていなかった件。1 万数千本ほどをピックアップしたら満たしてなかった、ということですよね。それは全部取替えなくてはならないのか。
- 【当 社】 全部取り替えました。5, 6 万本の中の危なそうなグループ 1 万数千本は全部取替えております。先ほど見下ろしていただいた場所が MOX 燃料工場ですが、そこは 10 年くらい経過しています。入っていたものも元々は J I S を満たしていました。我々はそれを雨ざらしになることを防ぐため、養生していましたが、中には水が染み込むものがありました。コンクリートの中にある鉄筋と外にある鉄筋に水がかかると、電池が出来るそうです。電池が出来ると鉄筋が電極になるので、少しやせ細る箇所が出てきます。その数字を見ると元々の J I S の許容値に満たない鉄筋が出てきました。それで、同じような鉄筋は全て取り替え、新しい物に取り替えました。
- 【委 員】 六ヶ所高校から電話があり、2 年生を対象にエネルギーの勉強会をしてくれないかという申し出がありました。生徒の多くが六ヶ所村の企業に勤めたい、という意識をもっているそうです。日本原燃にはそれに応える対応をしていただきたいと考えています。
- 【当 社】 安全性を伝えるより、地元の方に実際に働いていただいで大丈夫だよと思っただけでいただくことが一番だと思います。六ヶ所高校からの採用も含めしっかり対応していきます。
- 【委 員】 REEV ふれあいプラザの図書コーナーは好評ですよ。
- 【当 社】 ありがとうございます。配架する本のセレクトが難しく、隣は書店、向かい

には図書館があるので悩んでいるところ。

【委員】 本だけではなく休み場の一つになっている。他から借りてきた本をその場所で読んでいるかもしれません。その場所を使っているということ自体が良いのではないのでしょうか。

【当社】 そうですね。今は子供さんが来たときに、みんなで開いて見ていただけるような図鑑などを置いている。どういう本を置いたら良いか、どうしたらもっと使ってもらえるか、ぜひご意見を賜りたいです。

【委員】 げんねん地域大使は良い取り組みですね。その効果は出ていますか。

【当社】 出ていると思います。ただ、今コロナ禍であまり交流ができなかったり、地域の集会が少ないので、少し活動は停滞しています。でも、お祭りの時にちょいと手伝ってくれよとお声をかけていただいたり、交通マナーが悪いというお叱りの声を頂いたり、そういった声もスムーズに入るようになりました。

【委員】 とても良いと思います。地域の声を聴いて、応えてもらえれば、親近感もわくし、私らも協力しやすいと思います。

【当社】 私どももイベントを企画する際に、コロナ禍でございますから、これやって良いかどうか、どういうやり方が良いか等について、六ヶ所村の方からご助言をいただけますし、何より地域の声がスムーズに入ってきていることも非常にありがたいと思っています。

【当社】 げんねん地域大使は、我々地元根付いた企業という特徴があるので、六ヶ所村の出身者やスポーツなどを通じて六ヶ所で活動している社員を任命して、地元の方の意見を聴いていただいて、我々に伝えたり、会社で起きていることをきちんと伝えるようお願いしています。

【委員】 先日、新聞で日本原燃がMOXに関連する研究活動か何かの事業を受け入れるとあったが、それについて知りたい。

【当社】 今後の話として研究を受注した、という話だと思います。使用済MOX燃料を再処理して使うための技術が、六ヶ所の技術とどれだけ違うのか、どのくらい技術開発要素があるのかを見極めることが研究の目的です。それができる人は今の技術を分かっている人であり、それは我々だと思いを上げました。それがこの間の新聞の内容になります。

【委員】 他にご質問等がないようですので、私から一言申し上げます。1点目は私自身も12～3年ぶりに日本原燃に来ましたがあまりの変わりように驚きました。ここにお邪魔するまでは事業の実現性を感じていなかったのですが、今日色々拝見し、色々な課題があるとは思いますが、本格稼働がよいよ近づいていると思いました。こうして色々見て、説明を聞き理解が進みました。

2点目は、広報活動に力を入れていると思いました。日本はおろか世界でも類を見ない事業をやられており、広報活動の重要性はおのずと分かってい

と思います。特に地域大使については、地域の方への単なる宣伝ではなく、広く広報活動をされており大変素晴らしいと思います。色々な方をお呼びして見てもらうのも良いとは思いますが、日本の原子力政策全般に示唆の豊富な情報があると思うので、もう少し広い広報活動をして良いのではと思います。今日のご丁寧に対応いただき、ありがとうございました。

会議終了後、2013年度より地域会議委員としてご尽力いただいた小林委員より退任のご挨拶をいただきました。

【小林委員】

地域会議委員に任命されてから、日本のエネルギー事情や原子燃料サイクルの必要性等についてさまざま勉強させていただきました。長い間大変お世話になりました。

以 上